

求)ですね。私はベルナル・ビュッフェがとても好きなんです、残念ながら彼は自殺をしました。彼がもはや描けなくなったことが原因なんです、ある意味素晴らしいことだとも思っているんです。絵が描けなくなって、酒におぼれたりすることもできたかも知れませんが、彼は

思っています。死ぬ瞬間まで描き続ける、それほど素晴らしいことはないですね。

V ご自身では、どのような画家とらえていますか。

ザツキ 私はコンテンポラリーな画家ではありません。でも、私が個展を開くと、若いアーティストたちが「あなたのよう



自殺することを選びました。ピカソは92歳まで生き、最後まで描き続けました。描くことはお金の問題ではないのですよね。私も人生の最後まで描き続けたいと

に描きたい」と言ってくれて、私自身は

自分の画風がもう古いと思っていたので驚きました。1968年頃は自ら喜んで抽象画を描いていたのですが、そのうち

飽きてしまい、もっと色々なことを表現したい気持ちになったのです。そこで少し具象画に戻り、やがて トランスポジション transposition フィギュラティブ figurative を追及するようになりました。それは アグリアン agriaun (象形) を transposer (移し替える) ことです。たとえば妻が市場で買ってきてくれた花束を見ます。すると頭の中に、少しずつ黄色だったり赤だったり色が浮かんで、そこからインスピレーションを得ていくのです。

木と花束を描く画家 日本の影響を受けて 新たな技法へ

V 今回、軽井沢では2回目の個展となりますが、最初に軽井沢を訪れた印象はいかがでしたか。

ザツキ 前回訪れたのは8年前です。樹木がとても多く、自然が豊かで、とても心地よい場所でした。滞在時間が短かったのが残念です。

V その時に紅葉もご覧になったそうですね。フランスは黄色い紅葉が多く、赤く色づくことはあまりないようですが、日本の紅葉から何かインスピレーションのようなものはありましたか。

ザツキ それまでは主にブルーとグリーンを使っていましたが、紅葉の色合いや日本人の好む色を知り、少しずつ赤や黄色、オレンジなどを取り入れるようになった



「パレットには、すべての色を出しておきます。描くことの楽しみは、キャンバスを前にして色を持つこと。あらゆる色を用意してキャンバスの前に立つ、それは食事を前にして楽しむのと同じことです」。

りました。画家にとって新しい色を使うというのは大変なことなのですが、日本に多くの影響を受けて、これまで使ったことのない色も使うようになりました。

V 大きな変化となりましたね。創作活動の大きなテーマとなっているのは何ですか。

ザツキ 木ですね。ザツキといえば、木、垂直の線、ブルー、グリーンというイメージが強いと思います。木は人間にとって「呼吸」を意味しています。それから花束を描くことも多いです。日本の生け花も好きですよ。日本で習字を体験して、筆の自由な動きに感銘をうけました。墨の濃淡に影響を受けて、私も刷毛の使い方などを取り入れています。

V 日本とフランスで、樹木の違いはありますか。

ザツキ 日本では盆栽のように、木が大切にされています。冬には幹を覆ったり